

Aichi University

Lingua



INSTITUTE FOR LANGUAGE EDUCATION, AICHI UNIVERSITY

No.5 December 2014



オルレアンの中を散歩する愛大生

(詳細は「フランスセミナー」 P12～ をお読みください)

CONTENTS

◎ 特集 フィールドワーク・語学セミナー特集

・国際フィールドワークについて

国際コミュニケーション学部

片 茂永…………… 2～4

・アメリカ合衆国アトランタフィールドワーク

国際コミュニケーション学部

高原 隆…………… 5～6

・グローバル化と中国語

経済学部

桑島由美子…………… 7

・短期大学部 英語圏短期研修について

経済学部

川端 朋広…………… 8～9

・カナダ短期セミナー：「寒さ」の中に暖かさがある留学

国際コミュニケーション学部

鎌倉 義士…………… 10～11

・フランスセミナー

法学部

中尾 浩…………… 12～13

◎ ガルダ湖のほとりでロレンスに「再会」して

一第13回国際ロレンス学会への出席一

経営学部

山田 晶子…………… 14～16

◎ 座談会～ TOEIC IP スコアアップ法

文学部

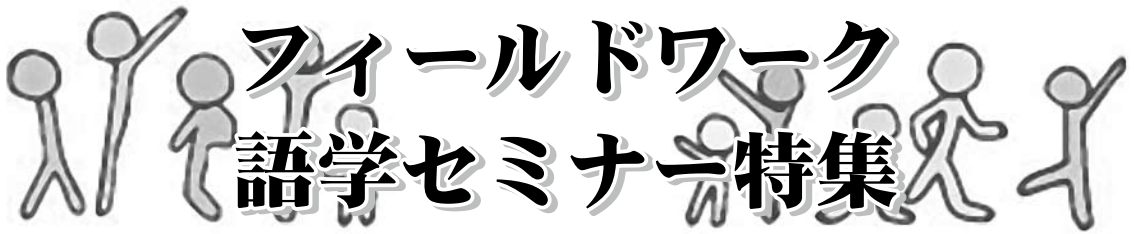
片岡 邦好…………… 17～22

◎ 英語・中国語eラーニングの紹介

…………… 23

◎ 2014年度 外国語検定奨励金のご案内・編集後記

…………… 24



フィールドワーク 語学セミナー特集

国際フィールドワークについて

国際コミュニケーション学部

片 茂永

国際フィールドワークという海外での実習科目は、国際コミュニケーション学部が開設された1998年度から準備が進められ、2000年度から実施が始まった目玉科目の一つである。最初は、韓国とタイの2か国でスタートしたが、翌年からは中国が加わり、その数年後にはアメリカ、さらにはドイツ、イギリスが加わった。そして2つ目のアメリカコースも追加され、今現在は、アジア、ヨーロッパ、アメリカの3大陸においてフィールドワークが行われるようになり、名実ともにグローバル志向の科目として注目されている。

私たちが国際フィールドワークにおいて目指しているのは、まさに“百聞は一見に如かず”の実践型科目としての役割であり、現地での直接的な体験を通じた問題の発見および分析や解決方法の模索である。したがって、文献や映像資料からの間接的な異文化体験に満足するような科目ではない。隣国の韓国や中国をはじめ、タイや欧米諸国に出向き、そこに一定期間滞在しながら調査活動を行う、いわゆる海外実習型科目なのである。

調査内容は各国のフィールドワークによって多少の違いはあるが、大体は生活文化や観光、世界遺産等のような問題が中心である。いずれの内容も、特にこの頃社会的にも注目されてい

る身近な問題が多く、日本との比較視点が求められる場合もしばしばある。

調査の効率化を図るために国際コミュニケーション学部が用意している教育プログラムは次の通りである。まず、現地語の学習からはじめ、国際フィールドワーク入門、国際フィールドワークⅠ（事前研修）、国際フィールドワーク実施（海外派遣）、国際フィールドワークⅡ（事後研修）といった科目群からなりたっている。

現地語の学習とは英語をはじめ、ドイツ語、中国語、韓国語、タイ語の学習のことである。ガイド付きのフィールドワークとはいっても、簡単な挨拶や買い物、道を尋ねる際のやり取りが可能なくらいの現地語はどうしても必要となってくる。

国際フィールドワーク入門は、フィールドワークを実施するための諸知識や方法に関する講義科目である。実施地域であるアメリカやイギリス、ドイツ、中国、韓国、タイに関する社会、自然環境、交通等の知識はいうまでもなく、調査方法に関する講義が行われるのもこの科目を通してである。現地人への接し方、調査写真の撮り方、インタビューのマナーや聞き書きの要領、または調査内容の記録方法についてのイロハも学ぶ。

国際フィールドワークⅠからは、実際にフィー

ルドワークを実施するコースごとの授業になるので、参加学生だけが履修する科目である。例えば、イギリスフィールドワークに参加する学生は、国際フィールドワークⅠ（イギリス）を、中国フィールドワークに参加する学生は、国際フィールドワークⅠ（中国）をそれぞれ履修しなければならないし、さらにコースごとのクラスにも入らなければならない。コースごとの授業内容は一様ではないが、派遣される前の具体的な準備であることには変わりはない。調査のための準備はもちろん、電車の乗り方、コンビニの利用やスマートフォンの扱いなど滞在中に必要な情報もこの授業を通して伝えられる。

いよいよ派遣の段階であるが、中部国際空港を発って戻ってくるまでの日数は15日間である。しかし、日本との距離によって、現地滞在期間が13日間だったり、14日間だったりする。その期間中に私たちの教育目標を達成すべく様々なことに挑戦することになる。

現地での行動パターンについても、各国コースや調査内容によって異なる。団体移動による見学があるかと思えば、班や組ごとの調査や見学もありうる。なお、よほどのことがない限りは、1人による単独行動は想定されていない。例えば世界遺産の見学や訪問、班や組ごとの写真撮影による調査や、録音しながらインタビューに臨む学生もいたりする。調査以外では現地の人との交流や少しの自由時間が与えられることもある。

国際フィールドワークⅡは、調査内容を整理し、なおかつ報告書として編集するための授業である。Ⅰを履修する人は当然ながらⅡも履修しなければならない。フィールドワーク報告書は、学内だけでなく、他大学や、海外滞在中にお世話になった人々にも送られるので、国際交流の維持発展のためにもとても有効に活用されている。

以上は、国際フィールドワークを構成する各

コースに共通する授業内容であって、海外調査の成果を上げるための基本といえるものである。しかし、海外での調査活動があまり順調でないときもあったが、そのような経験を私たちは大事に受け止めている。なぜならグローバルに物事を考えるためには、あのような試行錯誤は、外向きへのさらなる発展のためにはかけがえのない糧だといえるからである。

イギリスフィールドワーク に参加して

11K2066 山本 実加
国際コミュニケーション学部
比較文化学科4年

私は、授業を通して世界各国の文化の違いに興味を持ち、その中で英語の発祥地であるイギリス文化を肌で感じてみたいと思い、このフィールドワークに参加することを決めました。私たちはコスビー先生が住むコーンウォール地方を訪れました。山と海と大地が広がり、とても自然豊かな場所でした。産業遺産をテーマとし、2週間現地を調査しました。

私たちは、登山や、ハーバー、農家訪問、市長とのパーティーなど様々な体験をしました。登山では、ナショナルトラストの方による花や草木の紹介、この地方の歴史などを詳しく教えて頂きました。登山は思っていたより大変でしたが、みんなで励まし合いながら登りました。頂上から見た絶景は今でも忘れられません。

多くの体験をした中で、最も驚いたのがイギリス人の自然に対する考え方です。イギリス人は利便性を追求するよりも、第一に自然への配慮を考えていることを学びました。Eden Projectといった植物園に訪れた際、カップルから家族まで多くの人々でにぎわっていました。イギリス人にとってEden Projectはディズニー

ランドのようなものであり、感動する人が多いということを聞きました。この時、イギリス人は自然をととても愛しており、日本人との感覚の違いを学ぶことができました。

また、私たちの宿泊先は、山奥にあり、周りには何もない空気がとても綺麗な場所でした。夜は、みんなでホットチョコレートを飲み、外に出て星空を堪能しました。コーンウォールから見た星空は、日本では見たことがないほどのたくさんの星が見えました。天の川も見ることができ、イギリスの自然の素晴らしさに魅了されました。

このイギリスフィールドワークに参加して、様々な体験をし、イギリスの自然の美しさ、また、イギリス人の自然への思いを感じとることができました。また、仲間や先生との絆がより一層深くなることができました。この2週間の日々は私にとって、生涯忘れることのない思い出となりました。大変貴重な時間を過ごすことができました。



写真2 大英博物館の前で
2013年9月13日撮影（筆者は右から1人目）



写真1 バッキンガム宮殿での記念撮影、2013年9月1日

アメリカ合衆国アトランタフィールドワーク



国際コミュニケーション学部

高原 隆

国際コミュニケーション学部で行われる国際フィールドワークの中の一つとして、アメリカ合衆国アトランタフィールドワークが2013年度新しく始まった。順番でいうと第7番目のフィールドワークになる。ここでは今回行ったフィールドワークの大まかな全体の流れを説明したい。2013年春季学期6月に説明会を開き、応募してきた学生は13名であった。この企画は10名から15名の枠が実行可能人員数なので、すんなりと一回の説明会で2013年度のアトランタフィールドワークが決まった。しかし一人中国からの学生が応募していた。しばらくして本人からアメリカへの渡航ビザに関する必要書類が整わないことがわかり参加を断念するとの連絡があり12名になった。

秋学期が始まると国際フィールドワークⅠが事前研修として行われた。直接指導した教員は私とエドワード・チャン准教授の二人である。前半と後半の二つに分け前半を私、後半をチャン先生が担当した。参加者は一度も現地へ行ったことがないので、まずアトランタに関連する基本的な情報収集とその交換に時間を当てた。またチャン先生はアトランタに実際に住んでいたの、さらに具体的な情報提供を英語で学生と進めることになった。旅行会社からも実際に教室に来てもらい、具体的な情報提供並びに渡航手続きを進めていった。学期の終わる1月上旬にはほぼ準備ができあがっていた。アトランタフィールドワークが実際に行われたのは翌年2014年2月15日から3月1日までの13泊15日である。



カントン市長室にて市長より歓迎の挨拶

ところが出発日の3日前に参加学生の一人から怪我で参加できなくなった旨の連絡が入り、本人に再確認をした上で旅行会社とキャンセルの手続きを行った。このためフィールドワーク当日中部国際空港のロビーに集まった学生は11名であった。

全員の確認を終えると搭乗手続きを終えて、デルタ航空機に乗ってデトロイトへと向かった。デトロイトに無事着くとアメリカ合衆国への入国手続きをし、アメリカフィールドワークが始まった。

デトロイトでアトランタ行きの国内線に乗り換え、1時間あまりで目的地のアトランタに着いた。アトランタの到着ロビーには旅行会社が手配していたエージェントが待機しており、時間のロス無くすぐにアトランタから車で40分ほどのケネソーという町にあるモーテルタイプのホテルに到着した。ここが基地となって2週間にわたるフィールドワークが始まった。部屋はこぎれいで毎日午前中に清掃をしてくれる。学生は二人ないし三人の相部屋である。朝食付きで、朝6時半から始まり9時まで開いている。学生は思い思いに各自で食事を取った。豪華な食事ではないが、アメリカの普通の朝食で、シリアル、トースト、ビスケット（日本のビスケットとは違いパンまたはまんじゅうに近い）、ホットケーキ、ベーコン、チキンナゲット、卵料理、ジュース、ミルク、コーヒー、各種ヨーグルト、果物などが出ていた。

朝9時半にホテルのロビーに集まりその日のフィールドワークが始まった。アトランタフィールドワークと銘打ってはいるが、実際はアトランタ、ケネソー、マリエッタ、カントンの4つの町を見て歩く形になっている。

訪れた順にいうと、2/16マーチン・ルーサー・キングセンターが最初である。実際にキング牧師が働いていた教会はそのまま残っており、隣

にできた新教会でちょうど日曜礼拝が行われており、黒人バプティスト教会のあまりのすごさに学生たちは度肝を抜かれていた。午後からハイ美術館に行った。アメリカのアートを中心に展示しており、アメリカの美を一望することができる。2/17はストーンマウンティンという花崗岩で出来た一枚岩の山にのぼった。ここからアトランタその他この辺り一帯を360度地平線まで見渡すことができる。日本ではほとんど見ることができない光景である。いかにアメリカが空間的に広いかが実感できる場所である。辺り一面原野でその中に町がぼつりぼつりとたっているといった感じである。2/18、2/19はケネソー州立大学で過ごした。実際にアメリカ人の学生と一人一人ペアを組んでその学生と一日を授業も含めて体験したのである。2/20はマリエッタという町でフィールドワークをして過ごした。マリエッタには2/23、2/24にも訪れフィールドワークを行った。ここは車社会ができる前にできた町で、人が歩いて回れる範囲の中に町が展開しておりアメリカの特徴を調べる上で適している。2/21アトランタのコカコーラ本社が持つコカコーラワールドを見学した。世界のコカコーラはジョージア州アトランタから始まったのである。2/22はアメリカのショッピングモールに行った。高級ショッピングモールではないが、一般のモールでありアメリカ人の生活の一面を見ることができる。2/25には再度ケネソー州立大学に行った。ここにある日本人クラブとの交流会に参加した。2/26カントンに行き、新移民であるグアテマラ人地区を訪れた。2/27は自由日とした。2/28朝アトランタ空港から出国して3/1 19時頃無事中部国際空港に戻ってきたのである。

グローバル化と中国語

経済学部 桑島 由美子



経済学部フィールドワーク方法論 講義風景

愛知大学経済学部にはグローバル経済コースがあり、アジア太平洋地域を中心にこれまで、アセアン、韓国、中国（北京、上海、香港、広州）においてフィールドスタディを実施してきました。春休み、夏休み期間の集中講義で、毎回2年生以上の20人から30人の学生が参加しています。

日本企業の海外展開は今後も一層活発化するでしょう。経済学部の海外フィールドスタディでは、海外の日系企業を視察したり、調査、報告を行ったり、「現場」という視点から経済を学びます。フィールドワーク方法論では、海外展開している企業経営者、ジェトロの海外駐在員などを講師として、日本経済、地域経済のグローバル化について理解を深めます。

一方で、大学教育を取り巻く環境も急速に国際化が進んでおり、外国語教育の重要性は今後一層高まるでしょう。現地法人を設立する企業も増えており、弁護士、コンサルタントなども現地に進出しており、国境を超えて活躍する人材のグローバル化が一層進んで来ています。

国際中国語をめざして!

愛知大学では伝統的に中国語教育が盛んで、新入生も愛知大学で中国語を学びたいという人が多く、1年生のクラスで中国語履修の動機を尋ねると、まずは中国の「経済発展」への関心、そして「家族で上海に駐在した経験あり。」「カナダ留学時にホストファミリーが中国系だった。」「高校時代、台湾に留学した。」などの海外経験が聞かれます。誰もが、アジアを、そして中国を身近に感じるようになっていきます。



香港・華南フィールドワーク（2010年）

国際ビジネスにおいて英語、中国語は基本的なツールであり、国際語としての英語が、アジア域内でも必要のように、国際語としての中国語は、欧米でもアジアでも急速に普及しており、世界中の人が中国にアクセスするために、中国語を学習しているのです。経済学部など社会科学系の学部では、将来仕事で必要になると思われる中国語の基礎を、大学の1、2年次にしっかり学び、大企業への就職など自己実現の夢を切り開くステップにしてください。

短期大学部 英語圏短期研修について

経済学部 川端 朋広



短期大学部では、「英語圏短期研修」を毎年2月の初旬に行っています。が、この呼び名はあくまで登録上の正式名称で、短大では皆、「ハワイ研修」と呼んでいます。どうですか？このすばらしい響き！ハワイ研修！もうそれだけで行きたくなってしまいますね。（笑）もちろん名前だけではありません。これは愛大で行う海外プログラムの中でも自信を持ってオススメできる研修だと断言いたします。それでは、これから研修の内容についてご紹介しましょう。

さて、この「ハワイ研修」ですが、短大では十数年にわたって継続的に実施している目玉プログラムで、毎年20名前後が参加しています。私は現在、経済学部の所属ですが、長く短大の専任教員として勤務させていただいていたご縁から、現在でも時々引率を担当させていただいている次第です。

研修先は、大雑把に言うとなハवाईのオアフ島にあるハワイ大学なのですが、授業と宿泊の場所が別になっています。授業を受けるのは Leeward Community College（リーワード・コミュニティ・カレッジ）で、ハワイ大学系列のいくつかある Community College の一つです。Pearl City という、島の西部に位置する町にあります。

一方、宿舎はホノルルの中心に近い Manoa Campus（マノア・キャンパス）のゲストハウスを利用します。かの有名な Waikiki Beach などにもバスで15分程度で行けるという利便性もさることながら、このキャンパス内には、日本だ

と絶対にお目にかからないような植物が数多く見られます。これだけでも、南国にきた気分が高まってきますね。

ここから、毎朝スクールバスに30分近く揺られて、Leewardのキャンパスに向かいます。午前中に他所での研修が入っている場合は、先にそちらに向かってからLeewardに向かうこともあります。（朝は早いです。時には7時30分出発なんてこともあります！）

Leewardでの授業は、ほとんど毎回、現地の学生たちが参加してくれます。Japan Circle というグループがあり、その会員たちが、ボランティアで来てくれるのです。ハワイはもともと日系人が多く、このJapan Circleにも日系の姓を持つ学生たちがたくさんいます。（Inoue君とか、Tanaka君とか、フツーにいたりします。）また、苗字だけでなく、中には日本の名前をつけてもらった子たちもいます。前回訪れた際には SachikoさんやMieさんがいましたね。

で、授業内容とはいうと、ほとんどがこの現地学生たちとのTalk Session! 趣味や文化など、幅広いテーマにそって、4～5人のグループを組んで、ひたすらトークです。Circleのメンバーは、日本の文化にも大いに興味を持っていて、アニメの話で盛り上がったり、好きなJ-Popのアーティストを紹介し合ったりしているのですが・・・実を言うと、これはけっこう大変です。慣れないうちは、つい沈黙してしまうことも。ここで、「自分の英語力の足りなさに気付いた」と悩みを漏らす人も少なくありません。



しかし、それこそが大事な気付きなのです。こなれてくると、何とかジェスチャーを交えたり、不完全な文を繰り出したりしてでも会話を継続するようになっていきます。大事なのは「話したい」という気持ちです。

様々な海外研修の中でも、ハワイ研修は、この「現地の学生と話す時間がたくさんとれる」という点にかけてはトップクラスではないかと思います。そのおかげで、向こうで友達になった学生たちと、帰国後もSNS等で連絡を取り合い、卒業後に再度ハワイを訪れたり、逆に日本に来たLeeward生たちと再会したりということもあるようです。

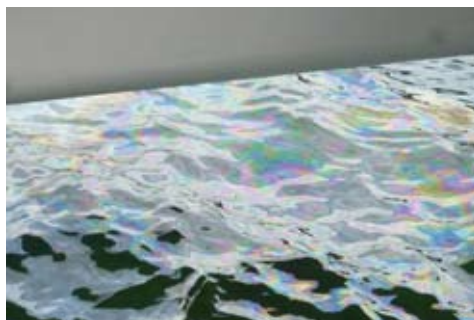


そして、この研修のもうひとつの魅力は、様々な場所や施設の見学です。まずは、Judiciary Centerを紹介しましょう。ここはかつて本当に使用されていた裁判所で、現在は学生や市民向けに法廷を公開したり、ハワイの地にまつわる裁判の歴史を学んだりすることができます。そして、何と言っても貴重な体験は、実際の法廷を使った模擬裁判でしょう。学生たちは事前に台本（英語！）で裁判の内容を学んでおきます。暗唱とまでは行きませんが、聖書に手を置いての宣誓など、本当の裁判を忠実に演じます。

独自の文化を持っていた現地人たちと、後から入植してきた西洋人たちとの間では、生活習慣や法律をめぐる多くの葛藤がありました。こうしたことを学べるのは、単に英会話や観光だけではない、この研修のハイライトのひとつではないかと思っています。



次に紹介するのはPearl HarborにあるUSS Arizona Memorial（戦艦アリゾナ記念館）です。第二次世界大戦中、日本軍が真珠湾を奇襲攻撃したことをきっかけに、アメリカも参戦することになりました。この奇襲攻撃では米軍の艦隊の多くが海に沈められ、そのうちのひとつである戦艦アリゾナの船体上に、この記念館が追悼施設として作られました。今でも、船体から漏れ出てくるオイルが水面に見えています。



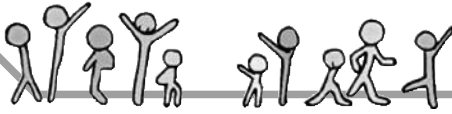
今では友人同士となっている日米両国ですが、その歴史にはこうした不幸な出来事がありました。特に、むこうの人々にとってはこの奇襲攻撃は許すことの出来ない屈辱として記憶に刻まれているようです。それでも、むこうの人たちは、あえてここを見学に来た日本人に対して、厳しい態度をとるということはありません。歴史を学び、そこから真の友人関係を築くことができればと、心から思います。

それ以外にも、むこうの学生たちと一緒にダイヤモンド・ヘッドに登ったり、レイ作りを学んだり、フラダンスの講習を受けたりと、1週間の間に、実に盛りだくさんの内容が詰め込まれています。帰る頃にはほぼ全員が、「あ〜あ、もう帰るのか〜」、と残念がります。そして、その次には必ず、「また来たいね！」となるのです。



それを聞いて、こちらは、「また連れてきてよかったな。」と心から思います。いかがですか？あなたもぜひ参加してみませんか？

カナダ短期セミナー：「寒さ」の中に暖かさがある留学



国際コミュニケーション学部

鎌倉 義士

2月のカナダと聞いて何を思い浮かべますか？学生がよく私に質問します「カナダの冬は何度になるのですか？」と、短期セミナーが開催される2月中旬のカナダの気温はマイナス10度から5度ぐらいです。それならば大丈夫と安心したかもしれませんが、セミナー開催地キングストンはオンタリオ湖横にある町で、留学先のクィーンズ大学のキャンパスからは湖のきれいな風景が見えます。カナダの天気予報ではFeels likeという気温が表示されます。これは体感温度に相当するもので、カナダ短期セミナーは体感温度マイナス20度を越える期間に行われることがあります。この「寒い」というカナダのイメージが、同時期に開催されるオーストラリア短期セミナーに参加学生が多い理由ではないでしょうか。しかし、3年間続けて引率し、クィーンズ大学で行われるカナダ短期セミナーは「寒さ」を除けば、全てが充実した素晴らしい短期留学であることに気がつきました。その素晴らしさは現地でセミナーに携わる人々の「暖かさ」から生まれるものに間違いありません。この文では、以下に短期セミナーで参加学生が出会うカナダの人々の素晴らしさについて説明したいと思います。

最初に、ホームステイの素晴らしさです。私は夏にイギリス、春にはカナダやオーストラリアの短期セミナーに引率したことがあります。それらの留学先と比べてもクィーンズ大学のホームステイのシステムは素晴らしいです。カナダ短期セミナーのホームステイは、Mary Lou（マリー・ルー）という心理学で博士号を持つ

先生が管理しています。彼女はとてもフレンドリーな女性で、ホームステイ先の家族をファーストネームで呼び、友人のように接しています。それは留学する皆さんがホストファミリーと初めて対面する場で目にします。ホームステイの家族が車で出迎える場でMary Louは到着する家族それぞれに名前呼びかけ、「学生をよろしくね」と声をかけます。これはクィーンズ大学がホームステイの家族の様子をしっかり把握していることに他ありません。

さらに、そのホームステイ先では、セミナーに参加する学生にお昼のお弁当としてサンドイッチを持たせてくれることが多いです。この食事は大学からホームステイ先に支払われる費用には含まれていません。そのお昼は短期セミナーでお世話になる家族のご厚意で提供されているものなのです。このようなことからクィーンズ大学のホームステイ先は、参加学生を家族の一員のように、いわば息子や娘のように扱い、学校に送り出してくれます。その様子からもクィーンズ大学が提供するホームステイ先で過ごすことが「暖かい」家庭に囲まれた良い経験になるのは間違いないでしょう。



キングストンへ向かうバス

次に授業について説明します。クイーンズ大学はカナダ国内でも一二を争うtop universityです。それはキングストンがオタワに移る前の首都であったことが関係するでしょう。クイーンズ大学を中心とする教育はキングストンの主要産業です。その環境で行われるカナダ短期セミナーは恵まれた大学施設にて行われます。世界中から留学生が集まり、キャンパス内には留学生交流のサロンがあります。2014年の参加学生はその交流サロンに頻繁に出向き、そこで海外の友人を作りました。そして、短期セミナーをコーディネートする先生も優れています。Karen（カレン）という先生は、以前大阪の中学校で英語を教えていました。彼女は日本で働いた後、母国の故郷で英語を教えたいと思い、クイーンズ大学に就職しました。日本人の学生の資質をよく理解しているカレンのおかげで、カナダ短期セミナーのプログラムは興味深いものになっています。後述するアクティビティでは、カレンが得意なクロスカントリーの野外経験に毎年学生が喜んで参加しています。授業を担当する先生たちもカナダの特色が表れる優秀な先生です。ここ数年カナダ短期セミナーを受け持つHee-Sok（ヒーソク）という先生は韓国系カナダ人です。外見は私たちと変わりませんが、カナダで生まれ育った先生で英語教育は完璧です。さらに、日本に近い韓国からの両親を持つため日本人の特徴を何かしら掴んでいるようです。カナダは多文化社会です。いろいろな



クロスカントリースキー

国からの移民が「カナダ人」として生活しています。Hee-Sok先生から学ぶことはカナダの多文化社会を知る良い機会となるでしょう。

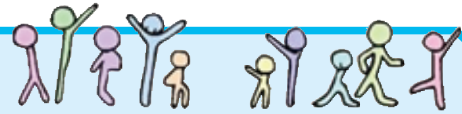
最後に、留学期間中のアクティビティについて触れます。カナダ短期セミナーはイベントが盛り沢山です。週末にはトロント、ケベック、オタワといった近郊都市への旅行があり、平日にも授業後にいろいろな活動があります。「寒い」からこそ楽しめる活動があり、雪に囲まれた大雪原をクロスカントリーで駆け抜けます。日本では一般的ではないスポーツを体験するのはこの機会しかありません。そして、「寒い」時期にはインドアスポーツが盛んになります。ホッケーはカナダの国民的スポーツです。セミナー期間中に参加学生は地元キングストンのホッケーチームの試合を観戦します。外が寒い時には屋内で楽しみ、ホームステイの家族とも家の中で楽しく映画やお話で楽しむことができます。

ここまでカナダ短期セミナーの素晴らしさをホームステイ・大学での授業・アクティビティの三つを中心に説明してきました。どれも「寒い」という理由だけで諦めてしまっては勿体無い良さを秘めています。これらの素晴らしさは全てこのカナダ短期セミナーに関わるスタッフたちの優しい「暖かさ」から生まれるものです。皆さんも是非カナダ短期セミナーに参加して、その素晴らしさに触れてください。



クイーンズ大学にて

フランスセミナー



法学部 中尾 浩

ここ数年、フランスセミナーは1月末に日本を発って、パリで1日研修をして、2月の最初の月曜日から4週間（2月一杯）オルレアン大学で語学研修を受けるというスケジュールが定着している。



オルレアンの街中を散歩する愛大生

初日のパリ研修では、オステルリッツ駅案内と列車の乗り方が最も重要なテーマとなっている。オステルリッツ駅はオルレアンへ向かう列車のターミナルなので、オルレアンから休日などにパリに遊びに来るときには必ずここを通過するので、事前に知っておいた方がよいばかりか、時刻表の入手方法（フランスは路線ごとに駅に置いてある）、時刻表の読み方（季節や曜日によって運行が違う）、列車に乗る前に「自分で」切符に打刻するなど、日本と違うことばかりなので、一通り説明するようにしている。ちなみに、去年は一通り紹介した後、次の目的地へ向かうために、学生諸君だけで地図を見ながら何線に乗ってどこで降りればいいのか調べてもらっていたら、通りすがりの親切なフランス

人老婦人に声をかけていただいて、「あら、そこなら歩いて行けるわよ」ということになったのだが、「メトロに乗る練習をしているところなんです」と説明するなど、楽しい思い出となった。

オルレアン大学での授業はおおむね水曜日を除いた月曜日から金曜日までは午前2時間と午後1時間で、水曜日はたいてい午前だけである。授業は文法、発音練習、ヨーロッパやフランスの地理・文化・歴史、などを7～8名の先生が入れ替わり立ち替わり交代で授業を担当している。以下に記す小旅行の前には、訪問地に関する地理的・歴史的な紹介の授業もあり、小旅行が単なる観光旅行にならないように、しっかりとサポートしてくれている。



オルレアン大学での授業風景

4週間の研修期間中に2回の小旅行を実施している。一つは泊まりがけで、たいていは人気の高いモン・サン・ミッシェル及び周辺のどこか（去年はサン・マロ）で、もう一つは日帰りでロワール川の古城巡りを実施している。フランスセミナーを引率するたびに、モン・サン・ミッシェルに同行しているが、昨年ほど見事に

晴れ渡ったことは今までなかった。学生たちも大喜びだったが、見学を終えて帰る間に突然激しい雨が降り、全員ずぶ濡れ状態でホテルに戻ったのも今となっては楽しい経験である。

フランスセミナーの学習成果は明らかである。とりわけここ数年はセミナーを修了した学生にはすぐ次の DELF（フランス国民教育省が実施している世界中で行われるフランス語検定試験）を受験することを勧めていて、A1 だけを受験して合格した学生が後から A2 も受験しておけばよかったと言うほど、昨年と一昨年は A1 は受験者が全員合格し、A2 にもかなり高い確率で合格している。今後ともセミナーに参加した学生には DELF の受験を勧めたい。

その他、紹介したいことは山のようにあるのだが、紙幅の都合でそろそろ終わりにしなければならない。

中尾 浩（法学部）

フランスセミナーに参加して

国際コミュニケーション学部（3 年生）

大学に入学してから第二言語としてフランス語を学び始めました。最初はフランス語を話せるようになったらカッコいいという単純な理由で選択しました。その後、フランスという国に興味を持ち、実際に行ってみたいという気持ちが膨らみました。長期留学に行くには語学力に自信があまりなかったので、1ヶ月のセミナーを行なっているのを知って参加しました。

大学を訪れる前に観光したパリで携帯電話を盗まれるというアクシデントに遭遇したけれど、娯楽のために持ってきたゲーム機をインターネットに接続して、メールで友人や先生、日本にいる家族と連絡を取りました。学習には関係なかったけれど、持ってきて本当に良かったと思いました。

学校では教科書を使った発音、リスニングの授業から、フランスの歴史について学びました。大学には日本語を学んでいて、留学も考えている学生もいるので、すぐに話すことができます。日本の文化が好きな人が多いので、同じ趣味を持っている人もいて仲良くなることができました。授業などで時間が合うことがすくなかったですが、連絡先を交換して、いまでも交流があります。お世話になったホストファミリーは日本人留学生を何人も受け入れていて、私にフランス語をたくさん教えてくれました。携帯電話を盗難されたことを伝えると、携帯電話を貸してくれて、とても感謝しています。ファミリーには女の子が3人いて、日本から持ってきたお土産を喜んでくれました。大学の授業から帰って、分からないことや、その日学んだことの復習を手伝ってくれました。語学以外にモン・サン・ミッシェルやシャンボール城などの有名な建築物を見に旅行に行く機会もあり、充実した1ヶ月になりました。

土日にはセミナー参加者でパリに電車で遊びに行くこともできます。ルーヴル美術館に行った際、オルレアン大学の学生証を見せると無料で入館することができました。交通機関や施設など時期や学生であるかによって割引があるみたいですが、その仕組みが良く分からなかったので、値引きされたらラッキー位の感覚でいた方がよいと思います。

帰国後はリスニングが向上し、参加前と比べてすらすらと単語が出てくるようになったので、フランス語での会話がとても楽しいです。実用フランス語技能検定試験や DELF などですらにスキルアップしていきたいです。



ガルダ湖のほとりでロレンスに「再会」して —— 第13回国際ロレンス学会への出席 ——

経営学部 山田 晶子

1. D. H. ロレンスとイタリア

20世紀のイギリス人の小説家・詩人・思想家である D.H. ロレンスは、日本では『チャタレー卿夫人の恋人』の作者としてよく知られている。この小説については日本で伊藤整氏の翻訳が昭和25年に出版されたが、昭和26年に、芸術作品なのか、あるいはわいせつ文書なのかということと裁判が始まって、昭和32年に最高裁で上告棄却という形で結審された時、東京高等裁判所で出た有罪判決が確定したため、長い間削除版しか出版されていなかった。しかし1996年（平成8年）に伊藤整氏の息子の礼氏が元の翻訳を補足する形で再訳されて完全版が出版された時には、もうこの小説は芸術作品であることが世に定着しており、問題にはならなかった。しかしいまだにこの小説に偏見を抱いている人もいるので、もう一度読んで再認識してもらいたいと思う。この小説はイタリアのフィレンツェ郊外で書かれた。

さて、1912年9月、ロレンス（D. H. Lawrence 1885-1930）は、駆け落ちした人妻のフリーダとドイツ、オーストリアを経由してガルダ湖畔のリーヴァに到着した。リーヴァは現在はイタリア領であるが、その当時はオーストリア領であった。初めてガルダ湖を目にしたロレンスは、かつての婚約者であったルイーザ・パロウズに9月15日付の手紙で「チロル地方を歩いてここまで来ました。とても素晴らしいとこ

ろで噂に聞いていた華美なところではありません。リーヴァはガルダ湖の北端にあって、本当に素敵な場所です。まさにイタリアといった感じがします。[中略] 湖は、深い青色で美しく、光がさんさんと降り注いでいます。こちらに来てから二週間になりますが、夕立に一度会っただけです。晴天が続き、暖かです。イチジクとブドウが食べごろで、何マイルもブドウ畑が続いています。」と書いている。またロレンスの死後1984年にケンブリッジ版によって出版された小説『ミスター・ヌーン』の中ではリーヴァへ来たことを「地獄から逃げ出して甘美な、明るい広い天国のようなところへ到着したようだ」と述べている。

このようにイタリアはロレンスにとって命を甦らせてくれた国であった。それゆえ彼は生涯に6度もイタリアを訪れていて、そこで重要な著作を何冊も物したのである。イタリアで書かれた代表的な小説には『息子と恋人』と『チャタレー卿夫人の恋人』がある。またイタリアを扱った紀行書として『イタリアの薄明』、『エトルリアの故地』、『海とサルデーニャ』がある。『イタリアの薄明』の中ではガルニャーノについて書かれている。

2. ロレンス研究の国際学会

ロレンス国際学会はロレンスの生誕100年目を記念して、1985年に第1回大会がイギリスの

ノッティンガム市で開催された。会場はノッティンガム大学のホールであった。この時の日本人の参加者は7、8人であったと思う。この時は日本人の研究者の研究発表はなかったが、私はこの大会に聴講者として参加し、国際大会とはこういうものなのか、という感じを抱いた。その時は国際学会は、自分が将来この学会で研究発表をすることになるだろうとは思ってもみなかった遠い高い存在であった。

その後、基本的に3年ごとに国際学会が開催されてきている。この学会が発足する前に、1980年、私は、ロレンスの死後50年目を記念する国際的な大会がノッティンガム大学で開催された時に参加した（聴講者として学会に出た場合は「参加」、研究発表をした場合は「出席」と記す）。この時は、今は亡きロレンス研究者として著名なキース・セイガー先生を中心としてセミナーが開催された。突然に、参加者と出席者全員がセミナーで何らかの発表をすることになったので、私も恥ずかしながら少し発表をさせていただいた。最後の打ち上げのセレモニーでは、御指名を受けて私はロレンスの詩を朗唱させていただくことになって、光栄であった。

またロレンスの生誕110年目を記念して、1995年にケンブリッジ大学で国際シンポジウムが開催された。この時は日本人の参加者は15名であったということだ（私はこの学会には参加していない）。この後、2003年には京都で第9回国際ロレンス学会が開催されて、30名の日本人研究者が研究発表をしたのだが（発表者の総数は70名）、私も発表させていただくことができ、大変感激した。

3. 第13回国際ロレンス学会

さて、今年の6月23日から27日まで開催された第13回国際ロレンス学会は、イタリアのガルニャーノ市にあるミラノ大学会議場で開催された。この町はイタリアの湖水地方にあり、ガルダ湖西岸のちょうど中程に位置している。ミラノ市から電車とバスで約3時間ほどで着く。ロレンスはフリーダと共にリーヴァからガルニャーノに移動して、現在も在るイゲア荘に1912年の9月半ばから翌年の4月半ばまで7か月ほど滞在した。今回の学会で、イゲア荘へは、ロレンス研究者として有名なジョン・ワーゼン先生が案内をしてくださった。

ロレンスが滞在していた頃はガルニャーノはまだ漁村と農村が混ざり合った素朴な村であったが、現在では観光地として、保養所やホテルがたくさん立ち並んでいる。ガルダ湖はとても美しい湖で、ホテルが立ち並んでいる際まで湖が迫っているのであるが、岸壁の際の水まで澄み切っていて水底が透明に眺められるのには感激した。あき缶やごみなど一切浮かんでいない。市挙げて湖を美しく保とうとする気持が伝わってきた。ロレンスが着いた9月は雨が少なかったことが手紙から分かるが、学会が開催された6月の気候は、昼間は晴れてかなり暑くて湖で海水浴をする観光客が多く見られた。しかし朝晩は涼しく、夜には激しい雷雨に見舞われることが多かった。

今回の国際学会は、113名の研究者が講演や研究発表をした。高名な研究者が多く出席されていたが、今年の3月にロレンスの著作書のケンブリッジ版の発行が完成したことをお祝いしてセレモニーが催されたからであった。研究発表のセッションごとのテーマは、「ロレンス

とイタリア」、「ロレンスと他の作家との関係」、「セクシュアリティ」、「ドラマ」、「詩」、「伝記」、「哲学と理論」、「戦時のロレンス」、「肉体と精神」、「精神分析」、「霊性と宗教」、「批評」、「ダンス」、「芸術」、「ジェンダーと国家」、「動物と他の意識」、「ロレンスと女性」、「哲学と理論」、「アメリカ」「受容と翻訳」等、多岐にわたっており充実していた。私は「戦時のロレンス」のセッションにおいて「『イギリス、私のイギリス』論—蛇と鎌の象徴について—」というテーマで発表をした。どの発表も使用言語は英語であった。

5 日間の会議中は、第1日目を除いて、朝の9時30分から夜の10時まできめ細かなスケジュールがびっしり組まれていた。夜の9時に夕食が終わった後には、ロレンスに関する映画やコンサートやドキュメンタリーの放映等があって、予定では10時終了だったが、11時頃終了になることも多かった。その後、ホテルに戻って1日のまとめをしてから就寝するのだが、アッという間に朝が来てしまう。なぜか4時半頃に目が覚めてしまうのだが、改めて眠る気にもならず、7時半～8時頃の朝食の時間が来るまで、窓の外の風景を眺めたりその日の予定を確かめたり、論文や本を読んだりしていた。

会場で研究発表等を聴いた後、会場の庭で湖を眺めながらの午前中のコーヒープレイクや昼食時、夕食時には各国の研究者と会話を楽しみ、ロレンス研究という同じ目的を持った人たちと親交を深めることができ有意義であった。今回日本人の研究発表者は9人であった。全員が日本ロレンス協会の会員で、日本では1年に1回開催されている全国大会でお会いすることがあった大学の先生方であるが、日本にいるとき

には親しく会話を交わすことができる時間は限られていた。しかし異国の学会では同じ国の人間ということで親しみが増したようであるし、いろいろな話をするのができて嬉しく思った。今回の日本人研究者の国際学会出席が、今後の日本のロレンス研究にとって多くの貢献することを期待してやまない。特にこれから日本のロレンス研究の要となっていくであろう若手の研究者がかなり多く出席されたことはまことに頼もしく思われる。

ロレンスが訪れた場所には彼の魂が宿っていると思われる。特に彼のように、いろいろな意味で強い人間の魂の力は計り知れなく大きいものであろう。彼を敬い研究する人間にとってはその影響力が深く及ぼされたことであろう、と期待している。今回はイタリアのガルニャーノ市で彼に「再会」できて本当に幸せであった。

今回の学会出席へは個人で出かけた。イタリアは英語圏ではないのだが、英語が話せれば問題なく1人で旅行できた。学生の皆さんには、英語を話せるようにしておけば、たぶんほとんどの外国へ個人で行けるのだということを伝えておきたいと思う。



ガルニャーノ市の湖岸から眺めたガルダ湖

座談会～TOEIC IP スコアアップ法～

進行:文学部 片岡 邦好先生

進行:文学部 片岡邦好先生 (以下:片)

2014年7月17日(木)13:20～14:50

パネリスト:12L4131 樋口結花 (以下:樋)
12L4304 齊木大吾 (以下:齊)
12L4007 岡澤くるみ (以下:岡)
12L4123 土赤桃子 (以下:土)
12L4037 高橋享菜 (以下:高)
12R5125 天野篤史 (以下:天)

聴講生:1名(文学部1年)

特別参加:短大部 ローラ・リー・クサカ先生
(以下:ク)

片:今日はTOEIC座談会に参加して下さってありがとうございます。まず皆さんはいろいろな意味でTOEICの成績優秀者ということですが、具体的にはどんな勉強をしたのですか?

樋:私の場合、これをしたから点数が上がった



という実感はないんですが、参考書などは使わずに英語の洋楽をよく聴いたり、英語のDVDを吹き替えなしで観るとかを1～2年前から行っていたので、それが伸びた原因かなと思います。参考書は難しい単語がおおいけど、洋楽やDVDはほとんど難しい単語は使わず、中学生レベルなので、会話のやり方もわかります。

片:なるほど、音楽聞いたり映画を見たり、比較的易しいものを、繰り返し見たり聞いたりすることで、知らないうちに点数が上がったということですね。

天:僕は大学も推薦で入ったので、高校ではほとんど英語の勉強をしてきませんでした。だから皆さんよりも英語の能力は



大分劣っていると思います。でも(2年生の)英語の授業で先生がTOEIC対策をやってくれて、リスニングの時間にはポイントをしっかりと教えてくれました。ライティングや長文読解のやり方も教えてくれたので、参考書は使わず、教科書を活用しました。それは自分でもできる内容だったので、そのポイントを掴むことが、得点が上がっ

た要因かなと思います。

片：TOEIC 受験のためのテクニックがあるんだなと感じた？

天：そうですね。1年生の時は英語の試験だからイヤだなという気持ちで、授業とかもポイントなどは何も教えてもらわず、TOEICの試験あるなあという感じでした。2年生の時はちゃんと解き方を教えてくれたので、そのポイントを意識して勉強し、試験の時もそのポイントを確認して臨みました。1年生のスコアが他の部員と比べても悪くて、みんなに勝ちたいと思って頑張った結果、1人にだけは敵わなかったけれど、大抵の部員を見返すことができました(笑)。

斉：1年生の後期がTOEIC対策の講義でした。



その時はまだTOEICを受ける実感が湧かなくて、最後の問題まで解くことができませんでした。20個ぐらい問題を余らせて、最後は適当に答えを選んだかな。2年生になりTOEICを受けた時は、「ここはこうしなければダメだ」というのを自分でも考えながら勉強できて、2回目は5分余らせるくらい余裕があったので、回数を重ねることで徐々にやり易くなっていくと思います。

岡：私が初めて受けた時、文法の穴埋め問題が50問あって問題の多さにびっくりした。そこを考えてばかりいたら、どんどん時間が

なくなったので、分からない問題は飛ばした方が良いと思います。文法の分からない



ところで悩み込むのではなく、飛ばして最後の長文問題まで行けるようにすべきだと思います。

片：TOEICの勉強で意識したことはどんなことですか？

岡：リスニングはTOEIC対策の授業で先生が聞き取るポイント、特に疑問詞などに注目するといいいよと教えてくれて、それを意識していたら解けるようになった。

土：リスニングは問題を解く間に時間が空くので、その間に次の問題を読んでおくことです。



樋：リーディングの時に3つ、4つパラグラフがある時は、パラグラフ毎のファーストセンテンスを読み、そのあとに問題文を読んだ。パラグラフの内容を把握して、この設問の答えはこの辺りに答えがあると自分なりに予想して解くという方法でやっていました。

高：私は、分からなかった問題の解答用紙の番



号に印をつけるか覚えておいて、時間が余ったらその問題を解き直しました。飛ばして解答の順番が狂ってしまうのを防ぐためです。

岡：それから広告などのアドバタイズメントや、メニュー表を読み取る問題では、文章中ではなく下の方に小さく書かれている所や図表の下にある注意マークなど、小さい文字で書かれている所がよく出題されるかなと思います。

片：メニュー表の問題は確かにクセがあるね。日本で普通にみんなが読むメニュー表より、アメリカ、イギリスのメニュー表は配置や金額、品物の並べ方が少しずつ違う。日ごろ目にする機会はあまりないけれど、形式を知っていると、どのあたりを最初に見ればいいのか見当がつかますね。

片：高校までの英語と比べると TOEIC、TOEFL の語彙や文法問題は難しいけれど、どう対処していますか？

樋：文法問題は自分の中で比重が薄いので、リーディングとリスニングばかりやってます。

片：最近は高校もアウトプットに比重が移ってきていて、リスニングがすごく苦手な人は減ってきていますが、少し前まで高校の英語は文法が中心で、日本人はリスニングで点が悪くても後半のリーディングや文法で

点が取れるパターンが多かった。逆に最近では文法が少し軽視されてきている傾向があるので、ちょっと皆さんの印象を教えてください。

土：文法問題は、テスト直前に高校の文法書を軽く見直すだけでも違うかな。

天：僕は高校の知識を思い出して感覚で解きました。得点が上がったのは長文です。1年生の時は文章を読んでから質問を読んだけど、2年生で傾向が分かり、先に質問を読んでトピック・センテンスを絞って解いていった。

岡：文法対策という訳ではないけど、TOEIC の長文の中でも、文法の穴埋めに出てきそうなフレーズが解説に載っているの、一つ一つ授業中に確認しました。リーディング対策をしながらも、語句単語・熟語を同時にチェックしていた。

斉：最初は TOEIC の長文問題まで辿り着くことができて、長文を早く読む練習をしようと取り組みました。語彙も増やさなければいけないので、長文に出てきた単語が分からなかったらすぐ調べ、速読の練習をしていたらリスニングの点数も上がった。

樋：確かに単語の意味が分からないと何もできないですね。

片：皆さんは単語力増強のために何かやっていますか？

高：1年生の初めに TOEIC 講座を受講して、TOEIC によく出る単語集をもらって勉強しました。

土：授業中に分からなかった単語はすぐに辞書を引く癖をつけておくと単語力が上がるんじゃないかと思います。

岡：私のことではないけれど、Language Café の参加者の 1 人に、すごく英語の上手な人がいて、その人はネイティブとの会話中に

分からない単語があると、すぐにメモを取り、分からなかった単語をすぐに辞書を使って調べ、書き出していた。

高：「キクタン」はTOEIC、TOEFLによく出る単語に印がついているからオススメです。それと「キク熟」も（キクタンの熟語バージョン）。

樋：大学受験の時、単語力は継続しなければ絶対に上がらないと思い、1日30語覚えることに決めんですがとてもキツかった。でもそれを2か月、3か月続けると、30語がスツと頭に入ってくるようになった。最初に覚えた単語は時々復習をし、忘れないようにしていました。

片：やはり地道な努力ですね。ところで、長期留学を真剣に考えだすとTOEFLの勉強する必要がでてきますが、この中で受験した人はいますか？

樋：はい。TOEFLの時は文法を徹底的に行い、スピーキングのために外国人と話したりしました。Language Caféは利用せず、自分でそういう環境を作りました。英会話の学校に行き、先生も積極的に工夫してくれました。その頃は1日に何十分間か会話をしていました。

聴 講 生： 私は TOEIC の 練習 を して、 かつ 英 検 の 勉強 を して、 TOEFL も 受 けた 感 じ で す。 将 来 は 英 語 の 仕 事 に 就 きたい の で 頑 張 っています。（「おおー」という声）



片：では日常的にどういう形で英語に接していますか？

高：何といっても英語の授業が増えました。強制されなくても色々と調べるようになり、英語が日常の一部になった。

岡：1年生と比べて耳がちょっと鍛えられたかなと。2年生の時は、授業はほとんどネイティブの先生だったし、一生懸命聞かないと授業も分からないから、聞こう聞こう、分かれよう分かれようしながら授業を受けていたら、英語を聞き取る力が1年生より向上したかなと思います。全文単語を聞き取れなくても、重要な単語をつなぎ合わせて意味をくみ取ろうとした。

片：授業は聞いて理解すればいいだけではなく的確に反応しなければならないので、ただ受け身ではなく自分から能動的に反応するのが大事ですね。

高：私は洋楽を聴いています。好きだと覚えし歌詞カードがなくても聴き取れるようになる。

岡：音楽のジャンルによって違うのかな。私はヒップホップ系をよく聴く。でもヒップホップを携帯の歌詞を見ながら聴いても速すぎてついていけない。

片：かつて人気があったのは、ビートルズやカーペンターズのようにはっきりと分かりやすい発音で歌ってくれるやつですね。最初からヒップホップは難しいでしょう。

英語の字幕で映画を見る人はいますか？

斉：僕は日本語の字幕にして英語を聞いてます。

高：私はディズニーがすごく好きで何度も繰り返し見ているうちにセリフも覚えます。普通の洋楽、洋画よりもディズニーは子ども向けだから、音楽も話しているセリフも簡単に分かりやすいし。

片：なるほど。じゃあ自分の興味のある情報が



英語のサイトでないといけない人はいませんか？

岡：外国の番組の「TED」をスマホのアプリで取っています。ネイティブだから話すスピードが速かったり、訛っていてよく分からない人とかもいるけれど、その中から聞き取りやすい発音の人を探し、電車の中で聴いている。日本語対訳もついているし、オススメです。

片：英語教材として使っている先生もいますね。詳しいサイトへ行けば、テーマ別、トピック別、難易度別もあると思う。刺激にも為にもなる教材ですね。

樋：スマホのアプリで「えいぼんたん！」という単語や文法、スペルなど総合学習ができる面白い無料アプリがあります。設定は学校で、入学してきたキャラクターを卒業させようというゲームで、卒業まで時間はかかるけど夢中になってしまう。それから何年か前にアメリカ留学していた時の友達とやりとりをするためにFacebookは英語でやっていました。

片：仮に何も制約がなければ留学したり、海外

に行ってみたいですか？

斉：アメリカに行ってみたい。理由は特にはないですけど。

天：僕は日本で十分です(笑)。海外旅行は行ってみたいですが、通訳やガイドさんがいてくればいいです。

高：留学ならアメリカ、オーストラリア。旅行ならアメリカ、ニュージーランド、ドイツかな。

岡：アメリカ。言語だけでなく、“アメリカ”を見てみたい。夢があるし憧れる。

片：旅行で行くのと住むのとでは違うので、実際に住んでみたほうがいいですね。住んで現実を知って夢を打ち碎かれるときもあるし、逆にこれこそ自分の住む場所と思うかもしれないし、それはぜひ自分で感じてほしい。

じゃあ、友人などで海外にふらっと出かけてるような人はいないですか？

樋：英語が全然できないから、ただ勉強がしたいという気持ちでフィリピンに留学した友人がいます。友人はコミュニケーション力がとても高いので、英語がとても上達し、

帰国後は英語でメールが来ました。色々とお実るものがあつたらしく、先生ともたくさん会話をし、留学をして本当に良かったと言っていました。

片：フィリピンはある種英語圏だし、滞在費、生活費も安いから、英語学習の場として最近はとても人気がありますね。愛知大学にはいろいろ留学プログラムがありますが、利用しようと思ったことは？

高：利用しようと思ったことはあるけれど、実行するにはハードルが高かった。

岡：私のハードルは部活です。半年（部活を）抜けたらレギュラーからも外れるし、（スキルも）落ちるし…。でも今思えば、思い切って利用しておけばよかった。

土：真剣に考えたことはあるけど…。ハードルは部活と教職課程と、お金です。部活には先輩で行っている人がいて、その方はラクロスの道具を留学先へ持っていき、自分から輪に混ざって練習していたらしい。やはり教職課程の比重が大きいです。

片：うーん、どれを優先するかは難しい問題ですね。

岡：先生が思う1番良い英語の勉強法は？

片：いろいろな勉強法があるので、どれが一番とは言いにくいですね…。可能なら英語の母語話者が日常の中で使うように四技能（読書聴話）を同時に伸ばすのが1番でしょう。私のイメージとしては、4つの技能のそれぞれが缶に空いた穴みたいなもので、どれかが低いと水を入れてもそこから漏れてしまう感じ。やはり偏らずにいろんなことを同時に生活の中で使える環境を持つことが最適でしょう。でも日本ではそういう環境はなかなかないので、意識的に作っていかないと。だから Language Café など

なるべく話したり聞いたりする機会を作ったり、日常的に音楽を聴いたり映画をみたりすることでも良い。また、海外の友達と Facebook など英語でやりとりするとか、いろんな機会を日常的に作ればベターでしょうね。

片：ところでクサカ先生はどうやって日本語を学んだのですか？

ク：私は主に辞書を使って2年間ほとんど独学で勉強し、なんとか新聞が読めるようになりました。日本に来てからは英語を話す人との交際を一切せず、2年間そういう環境に自分を置いたら身についたんです。私の日本語の勉強方法は古いタイプの教科書と文法が中心です。映画を見たりすることが楽しみにになったのはずっと後です。経験上、ある一定の時に集中して行うことがすごく大事だと思う。私は視覚的に学習するのが得意で、日本にきて1番楽しみだったのが電車に乗ることでした。どこへ行くにも駅名がひらがな、ローマ字、漢字で書いてあるので、それが記憶に残り、あとになっても出てくる。人と関わり、自分の気持ちいいと思う（楽な）空間（comfort zone）から出ていくことがバネになると思います。

片：みなさんがこういう形で色々勉強法を交換することによって、多少なりともこれからの大学生活と今後の人生に関わるようになってくれれば有り難いかなと思います。また、今回の皆さんの意見が Lingua に掲載され、それを読んだ人の役にたつことを祈りたいと思います。

（座談会終了）



英語・中国語 e ラーニング (ALC Net Academy 2) の紹介



eラーニングは、コンピューターを使って学生が自分のペースに合わせて無理なく自由に学習ができる Web 学習システムです。Live Campus のアカウントとパスワードでログインができ、学内および自宅から24時間無料で利用ができます。

本学では ALC NetAcademy2 を導入し、下記 6 コース(英語 5 コース、中国語 1 コース)を用意しています。2014年度からは英語「スーパースタンダードコース」を新たに導入しました。TOEIC試験対策や総合英語学習の向上、中国語の重要な発音特訓など、豊富な問題数と幅広く工夫された学習で語学力のスキルアップが望めますので、ぜひ利用してみてください。

※スマートフォン、携帯電話には対応していません。

英語

【スーパースタンダードコース】 New!

- 特徴① 学習前と学習後のレベル診断テストで、学習の到達度を測定
- 特徴② ディクテーションやシャドーイングの反復学習で、英語力を強化
- 特徴③ 1回30分の演習問題で、効率的な TOEIC テスト試験対策

【スタンダードコース】

- 特徴① 細心昔から上級者まで幅広いレベルに対応
 - 特徴② レベル診断テストで現在の語学力を測定
 - 特徴③ 問題数 182 ユニット
- ※このコースの「TOEIC テスト演習」は、旧形式となります。

【初中級コース】

- 特徴① 初級、中級者向けの TOEIC 試験対策
 - 特徴② リーディング、リスニング力の強化
 - 特徴③ 問題数 59 ユニット (900問)
 - 特徴④ TOEIC テスト対策をパートごとに徹底攻略
- ※パート別学習は、本コースのみ

【powerwords コース】

- 特徴① すべての学習者(入門～上級者)に対応
- 特徴② SVL12000 に準拠した学習
※ SVL12000 = 標準語彙水準
ネイティブの使用傾向を基に、日本人英語学習者に必要な語彙を、「有用性」「重要性」を考慮して 12 のレベルに区分したものの。(1 レベル = 1000 語)
- 特徴③ 就職活動にも有効な IT 用語、略語、カタカナ語、四字熟語、日本語一般基礎学習をマスター
- 特徴④ 問題数 733 ユニット

【TOEIC テスト演習 2000 コース】

- 特徴① TOEIC 試験対応のテスト専用コース
 - 特徴② TOEIC 本試験を 3 つの受験パターンから徹底的に学習 (2 時間 / 1 時間 / 30 分)
 - 特徴③ プレリスメンテストや実力テストの幅広い用途に対応
 - 特徴④ 問題数 70 ユニット (2000 問)
- ※本コースは、各ユニット 1 回しか受験できません。時間に余裕をもって取り組んでください。

中国語

【中国語コース】

- 特徴① 入門～中級レベル (中国語検定 3 級レベル) の語学力を養成
- 特徴② 中国語学習に欠かせない発音・ピンインを楽しく徹底的に学習
- 特徴③ 語彙と会話を統合したシチュエーション別学習 (学校 / ビジネス / 旅行 / 生活 / 文化) で、目的に合わせた効率的な学習が可能
- 特徴④ 中国語検定準 4 級～3 級本試験のハーフサイズテストを用意

2014年度 外国語検定奨励金のご案内

言語	名古屋校舎		豊橋校舎	
	試験名称	基準	試験名称	基準
英語	実用英語技能検定（英検）	準1級以上	実用英語技能検定（英検）	2級以上
	TOEFL iBT	50点以上	TOEIC	530点以上
	国際連合公用語英語検定（国連英検）	B級以上	TOEIC IP	①750点以上 ②前年比100点以上
	ビジネス通訳検定（TOBIS）	3級以上	TOEFL iBT	50点以上
	日商ビジネス英語検定	3級以上		
	通訳案内士（通訳ガイド）	合格		
ドイツ語	ドイツ語技能検定（独検）	4級以上	ドイツ語技能検定（独検）	4級以上
フランス語	実用フランス語技能検定（仏検）	4級以上	実用フランス語技能検定（仏検）	4級以上
	DELFS・DALF	A1以上	DELFS・DALF	A1以上
	TCF	100点以上	TCF	100点以上
中国語	中国語検定	4級以上	中国語検定	4級以上
	新HSK	3級以上	新HSK	3級以上
ロシア語	ロシア語能力検定	4級以上	ロシア語能力検定	4級以上
韓国・朝鮮語	ハングル能力検定	4級以上	ハングル能力検定	4級以上
	韓国語能力	2級以上	韓国語能力	2級以上
タイ語	タイ語検定	4級以上		
	実用タイ語検定	3級以上		
日本語	日本語能力（JLPT）	N1級	日本語能力（JLPT）	N1級
	BJT ビジネス日本語能力テスト	460点以上	BJT ビジネス日本語能力テスト	450点以上
☆中国語は現代中国学部を除きます				
英語 TOEIC は教務課にて申請 2015/2/28 締切 詳細は Live Campus 参照		650点以上		

受付期間 名古屋校舎 2015年1月31日まで

豊橋校舎 2015年2月14日まで

詳細は所属校舎の語学教育研究室にて確認してください。

奨励対象者 学部学生・短大生（協定留学生・大学院生・オープンカレッジ生等は除きます）



〈編集後記〉

今回の特集は、学生参加型の授業について紹介しました。外国語科目としての海外セミナーは年々参加者が増えています。今回はフランスとカナダでしたが、美術館に行ったり、スキーを楽しんだり、とても楽しそうです。このほかに、各学部で、特色のある企画として、短期大学の短期語学研修、国際コミュニケーション学部の国際フィールドワーク、経済学部のフィールド・スタディ、などがあり、専門について理解を深め、現地で外国語に触れることができます。みなさんも、ぜひ積極的に参加してみてください！（Y.K.）